

第2回久米島 TNR・TNTA 報告書

対象エリア

真我里・比嘉・謝名堂・泊

アフターフォローエリア

イーフビーチ周辺・奥武島

2021年7月11日～16日実施

2021年7月31日

一般社団法人にゃんこ亭



第2回久米島 TNR・TNTA 報告書

●実施内容報告

保護猫頭数

	期間内保護頭数	飼育猫保護頭数	事前保護頭数	未処置リ-ス*1	保護後出産仔猫頭数	保護総頭数
PJ 頭数	124 頭	16 頭	14 頭	1 頭	10 頭	165 頭

*1 未処置リ-スは出産直後で仔猫への授乳が必要なため、捕獲後リ-ス

実施医療頭数

	島内去勢不妊手術頭数	島内ワルバ検査	ワクチン接種総数	妊娠頭数*2	墮胎頭数	未処置頭数*3
医療実施数	102 頭	65 頭	74 頭	2 頭	14 頭	63 頭

*2 妊娠後期の為、不妊手術未実施

*3 個体の体調不良及び小さい為の未実施

TNR・TNTA 状況

	TNTA (島外搬出頭数)	TNR (島内リ-ス)	未処置リ-ス*4	島内保護	島内飼育
行き先頭数	24 頭	53 頭	1 頭	71 頭	16 頭

*4 授乳猫 1、前回の手術済猫 1

OTNR・TNTA の結果

167 頭の保護した猫に対して、

- ・島外搬出 24 頭 (14.5%)
- ・島内保護 87 頭 (52.7%)
- ・島内リ-ス 53 頭 (32.1%)
- ・未処置リ-ス 1 頭 (0.7%)

OFeLV(猫白血病ウイルス)・FIV (猫免疫不全ウイルス) 検査

65 頭の実施結果において

- ・FeLV 陰性・FIV 陰性 49 頭 (75.3%)
- ・FeLV 陰性・FIV 陽性 16 頭 (24.6%)

○結果報告

島内医療では 102 頭の手術を行い、全て経過良好で死亡・障害は0となっております。

久米島島内でのシェルター設置にともない、島外搬出 24 頭 (14.5%) と島内保護 87 頭 (52.7%) と 7 割に相当する猫を保護・里親探しへなどの管理飼育状況下となっております。

ウイルス検査におきましては、依然検査数の 24.6% が FIV 陽性と全国平均 10% 前後と言われている中においては、高水準な結果となりました。

ただし、今回も FeLV は検出されずに島内に侵入はまだしていないと考えられます。

●結果考察

対応エリアの捕獲頭数としましては、当初の計画想定頭数(100頭)より多くの猫を捕獲する事となりましたが、仔猫の保護頭数の割合が高い結果となりました。その結果、医療行為を実施できるまで育っていない個体が多く医療未実施になり、成育期間のシェルター保護を余儀なくされております。

さらに妊娠初期の墮胎頭数(14匹)も多く、今回活動を実施していなければ平均出産頭数5匹と言われる猫の出産頭数を鑑みるとさらに70頭程度が今該当エリアに増えていた可能性があります。

今回はモニタリング調査期間が短かった為、調査精度が前回より乏しく活動実施してから、捕獲頭数の上昇や頭数上昇に伴う飼育保護計画を随時調整する事態となり、多頭飼育者とのスムーズな交渉に至らないケース(城間邸)があり、今該当エリアでは推定2割程度は保護に至っていないと推測されます。

また、今回の該当エリアでの活動において、喜久村邸(謝名堂)と宮城邸(謝名堂)の2軒、宇禄邸(比嘉)と城間邸(比嘉)と村吉邸(比嘉)と比嘉邸(比嘉)の4軒のように餌やりをしている方の自宅の行き来しながら、繁殖しているケースが確認されました。

上記のような家庭に適切な飼育の指導や情報提供をして頂く仕組みは早急に確立する必要があります。

しかしながら妊娠猫を出産前に保護すること、仔猫の段階で保護できたことにより、猫の増加への防止を行う事ができました。

またFIV感染率が高水準ために去勢・不妊手術を早期に継続的に行う必要があると思われれます。

FIV感染症の感染経路事がケンカによる咬傷からの唾液感染によりますので、去勢・不妊手術によりホルモン分泌も抑制する事により、ウイルスの感染拡大に一定の効果をもたらすと期待されます。

そして、今回の活動において総数の70%が飼育管理下になりますので、幾分かの糞尿被害が軽減されることが予想されますが、仔猫の保護を優先せざるを得ない状況で成猫の保護割合が前回より低い結果となりました。

●実施地域の今後対応

・上記でしました6軒に関しては、定期的な訪問を行い新たな猫の出入りがないかなどの状況確認を継続することが必要です。

また、城間邸につきましては今回の期間中に飼育しているとされる猫の提供をされてないので、今後状況をみて、不妊手術の実施をする必要があります。

・次回のTNR・TNTA活動時までに関今に捕獲出来ずにいる猫のモニタリングを行い、次回のエリアと合わせて行う必要性があります。

●今後の課題

○実施地域のモニタリング調査

・短期間での捕獲を実施するためには、猫自体が大変臆病な動物である為に実施地域の事前のモニタリング調査による猫の行動調査が大変重要である。

・より精度の高い調査が必要である為、官庁をはじめ各自治組織の部落長・班長へ連携を密にとることが今後の必須であると思われれます。そのために早めの情報公開をしていく必要性があります。

○早期の継続活動及び隣接する地域へのローラー展開での活動の継続

- ・今回の実施地域への猫の取りこぼしによる繁殖防止の為、また、移動による未去勢猫の侵入防止のために早期に継続した隣接エリアの活動を必要とします。

○行政を含めた周知・広告の徹底

- ・事前の周知・告知が浸透させること、各部落での活動協力者の確保。

○飼育状況の改善

- ・不妊去勢手術を始めとする、室内飼いの徹底や昨今の日本における猫の飼育状況への意識改革が必要です。また、周囲の方々を含めた飼育に対する嫌悪感の排除も必要かと思われます。

○高齢単身者のケア

- ・ご高齢単身者が適切な飼育状況で、健康的な生活を送れるように福祉課や社会福祉協議会との連携のもとに多頭飼育になる前に対処できるシステムの構築が必要です。

○島外搬出先の確保

- ・継続的に活動を行う上で島外に搬出し、里親譲渡に繋げるネットワークを充実させていく必要がある。

今回の TNR・TNTA 活動を通して、猫の物理的な繁殖抑制と共に島内環境として、多頭繁殖を起こしている人間に対しての啓発・意識改革・罰則などによる強制を踏まえて、人間に対しての対応が今後の課題となります。